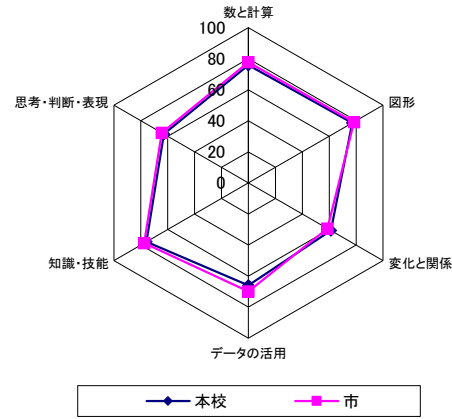


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.9	77.7	78.6
	図形	77.1	78.4	74.4
	変化と関係	61.2	58.7	53.0
	データの活用	66.0	69.9	57.2
観点別	知識・技能	75.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	63.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は75.9%で、市平均よりも1.8ポイント低い。 ○分数のかけ算やわり算の問題は、市の平均より4ポイント以上上回っている。 ●文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表す問題や、一方の文字の値から他方の値を求める問題は、正答率が低く、市の平均を10.3ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習などで、計算ドリルやAIDドリルを活用しながら繰り返し計算練習を行ってきた成果が表れていると考えられる。今後も、基本的な計算の定着に向けた計算練習を継続して行うとともに、発展的な問題を解決する力を身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図っていく。 ・「文字を使った式」の学習では、立式する際に問題場面を図で表す活動を意図的に取り入れ、求めた値が答えとして適しているかを確認するよう伝えていくことで、定着を図る。
図形	平均正答率は77.1%で、市の平均と同程度である。 ○三角柱の展開図を組み立てたときの重なる頂点を見つける問題では、市の平均より6.3ポイント上回った。 ●底面積と高さから角柱の体積を求める問題や、六角形の内角の和の求め方を説明する問題は、市の平均を大きく下回っている。	・図形の展開図については、操作的な活動と併せてICTを活用し、組み立てたときにどの辺・点が重なるのかを、感覚的・視覚的に捉えられるようにする。 ・多角形の内角の和の求め方については、三角形や四角形の内角の和をいろいろな方法で試しながら、180°、360°であることを理解した上で、演繹的に考えられるように授業を進めていくことで、理解を深められるようにする。
変化と関係	平均正答率は61.2%で、市の平均より2.5ポイント高い。 ○表から面積と人数の割合を求め、混み具合を考察する問題では、市の平均より10.4ポイント上回った。 ●百分率をもとに、割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、市の平均より1.6ポイント下回っている。	・教科書の問題の他に、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量や比較量の関係を表したりする活動を取り入れていく。また、宿題プリントなどで復習する機会を設け、確実な定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は66%で、市の平均より3.9ポイント低い。 ○円グラフから割合を読み取る問題では、市の平均を9ポイント上回った。 ●平均から全体の量を推測する問題や、資料をもとに度数分布表を完成させる問題では、市の平均を大きく下回っている。	・平均が「凹凸をならしたときの1つ分の大きさ」であることを図を活用して捉えさせるなど、平均の意味を正しく理解し、日常生活の様々な場面を想起させながら、具体的に考えられるようにする。 ・目的に応じて表やグラフを選択し、必要な情報を読み取り、考察する力を育むために、そのデータをなぜ使うのかを明確にし、自分の考えを根拠を明らかにして表現する活動や、相手が納得できるように筋道を立てて説明する場を、授業の中で多く取り入れていく。